

§ 1 コメの品種の移り変わり

日本国が認めているお米(国に品種登録している米)の品種は、839品種(2016年3月現在)あります。このうち主食用は270品種、もち米で70品種、日本酒用で100品種くらいあります。今月は日本で されているおコメの品種について紹介します。

こんなにたくさんの品種がある理由は、1)気候条件にあった品種の栽培を各地で進めたため。2)農家の経営がよくなるよう、よく売れるお米や高い価格で販売できるお米を選定したため。3)農家が栽培するうえで、リスク分散のため複数の品種を栽培するため(田植えや収穫時期等作業時期がずれるようにしたり、複数品種を栽培することにより冷害や病気で全滅しないようにする為)と思われる。

しかしながら、栽培されている国内の主食用米の品種は、この30年間で大きく変わってきました(表1参照)。作付割合の品種トップ10で、30年前と同じ品種でランクインしているのは、「コシヒカリ」と「あきたこまち」の2品種のみです。これは、知名度の高さや販売のしやすさから依然として全国各地で栽培されているものと思われます。30年前に2位の「ササニシキ」は東北のみで栽培された品種でしたが、93年の冷害により壊滅的な被害を受けたこともあり、代わりに「ひとめぼれ」の栽培が多くなっております。3位の「日本晴」は滋賀県を中心に栽培されておりましたが「コシヒカリ」に、北海道で栽培されていた4位の「ゆきひかり」は、北海道で開発された新品種の「ななつぼし」や「ゆめぴりか」に代わりました。

近年では各県、各地域での品種転換が進んでおり、ブランド化の競争も激しくなりつつあります。ご当地周辺でも、富山の「富富富(ふふふ)」、石川の「ひやくまん穀」、福井の「いちほまれ」、岐阜でも「縁結び」等々、コシヒカリ一辺倒から脱却すべく、各県で新品種の開発や栽培だけでなく、ブランド化にも力を入れているようです。消費者にとっては、食するコメの品種の選択肢が増え、選べる楽しみが増えます。また、生産者にとっては、栽培がより簡便になったり、売れるお米、付加価値のついたお米の栽培ができることでもあり、今後もコメの品種の開発やブランド化に期待したいものです。

表1 主食用作付品種

順位	1989年産	比率 (%)		2016年産	比率 (%)	主要栽培地域
1	コシヒカリ	25.4		コシヒカリ	36.2	新潟、茨木、栃木
2	ササニシキ	10.9		ひとめぼれ	9.6	宮城、岩手、福島
3	日本晴	7.7		ヒノヒカリ	9.1	熊本、大分、鹿児島
4	ゆきひかり	3.8		あきたこまち	7.0	秋田、岩手、茨木
5	あきたこまち	3.0		ななつぼし	3.5	北海道
6	初星	2.8		はえぬき	2.8	山形、香川
7	黄金晴	2.4		キヌヒカリ	2.5	滋賀、兵庫、和歌山
8	むつほまれ	2.4		まっしぐら	1.8	青森
9	キヨニシキ	2.1		あさひの夢	1.6	栃木、群馬
10	中生新千本	1.7		ゆめぴりか	1.5	北海道

§ 2 展着剤の分類と使い方

農薬要覧2016によると、日本市場では、63品目の展着剤が農薬登録され、2887t(農薬全体の1%)が出荷されています。展着剤は有効成分である界面活性剤の分類からみると、3つのグループに大別されます。1. 非イオン単独の製品(40品目)、2. 陰イオンが配合された製品(11品目)、3. 陽イオンが配合されたものを含むその他製品(12品目)となります。

機能面で分類すると、機能性展着剤(アジュバンド)、一般展着剤、固着剤、飛散防止剤の4種類に大別することができます(2011年に飛散防止剤は登録失効)。「機能性展着剤」は、高濃度で使用され、薬液の浸透性、浸達性を強化し、薬液が植物体内に入りやすくし、農薬の効果を積極的に引き出し、効果を高めるだけでなく作業時間を含む総経費削減に寄与します。「一般展着剤」は、散布液の表面張力を下げることにより拡張性を改善し、低濃度で濡れにくい作物や病害虫等への付着性を改善し、薬液が均一に付着させ、散布ムラを軽減させます。低泡性の機能や混用性を改善する機能を持つものがあり、物理化学的性状から現場の作業性を改善する剤です。「固着剤」は、初期付着量を高めることにより殺菌剤など薬液を植物体に固着させ耐雨性を高め残効性を延ばすことができる剤です。

* 有効成分から見た展着剤の分類

非イオン性 (40品目)	1成分系	エーテル型	脂肪酸系	サーファクタント WK、マイリナー
			芳香族系	アルソーフ、クサリナー
		エステル型		アプローチ BI、KK ステッカー
	複成分系			スカッシュ、ミックスパワー
	シリコーン系			まくぴか、ブレイクスルー
陰イオン性配合 (11品目)	リグニンスルホン塩系			シンダイン、ダイン
	ジアルキルスルホコハク酸 Na 系			ダイコート、トクエース
	ホリナフチルメタンズルホン酸 Na 系			グラミン S、クミテン
	その他			サブマージ
その他 (12品目)	パラフィン系			ペタン V、アビオン E
	陽イオン性活性剤系			ニーズ、ブラボー
	その他			タマジエット

* 商品コンセプトから見た展着剤の分類

アジュバンド (機能性展着剤)	汎用	アプローチ BI、スカッシュ、ブラボー、ミックスパワー ニーズ等
	除草剤専用	サーファクタント WK、サプライ、クサリナー、アルソーフ
一般展着剤		アグラール、グラミン S、サブマージ、マイリナー
固着剤		ペタン V、アビオン E、KK ステッカー
飛散防止剤		アロン A(2011年登録失効)

展着剤を使用する際の薬液調整時には、一般的にはまず展着剤(一部の展着剤では最初に入れることを推奨されていないものもありますので使用前にラベルの注意事項を確認してください。)を最初に入れ、二番目に乳剤、最後にフロアブルや水和剤を最後に入れて、薬液を調整します(通称:テニス:展着剤、乳剤、水和剤と覚えます。)

普段何気なく使用している展着剤ですが、薬効増強効果、散布水量の低減、散布回数の低減、耐雨性の向上等の効能があり、効果的な使用方法によっては、資材低減化、作業軽減に繋がるもので、現場での使用場面は今後もっと大きくなると思われます。使用する作物、薬剤、現場状況を踏まえて皆様も効果的な使い方をしてみてください。

目次

§ 1 コメの品種の移り変わり (代表取締役 堅田充宏).....1 ページ

§ 2 展着剤の分類と使い方 (第二営業部 氏永将成).....2 ページ